

ご存じですか？選挙権の歴史



選挙が行われると、テレビや新聞などで“投票率”が取り上げられます。近年、投票率は全国的に低い傾向にあり、平成29年の衆議院選挙の投票率は、戦後2番目の低さでした。なぜ投票率が低いと問題なのでしょう。それは、投票する権利「選挙権」が参政権の中で代表的な権利とされているからです。

「参政権」って？

国民が、政治に直接または間接に参加できる権利です。選挙権・被選挙権、国民審査の権利などがあります。国民の意見を忠実に国政に反映させ、国民の人権を実現するために、「参政権」の保障はとても重要です。

「選挙権」って重要？

なぜ、選挙権が参政権の中でも代表的な権利とされているのでしょうか。それは、選挙によって選ばれた国民の代表者が政治を行うからです。つまり、選挙における国民一人ひとりの票が、政治の担い手である議員を選び、日本の政治を左右することになります。

「選挙権」はみんなが持っていて当たり前？

今でこそ、18歳以上の日本国民であれば、性別や収入に関係なく、すべての人が選挙権を持ち、自由に投票できます。しかし、昔はごく一部の限られた人しか選挙権を持っておらず、選挙で投票することができませんでした。どのような流れですべての人が選挙権を手にしたのか確認してみましょう。

やっと獲得した選挙権

初めて国民に選挙権が与えられた当時は、全国民のうち、1%しか選挙権を持っていませんでした。当時の「15円」は、現在の金額にすると「60~70万円」と考えられており、当時この金額を納めることができる国民はごく一部でした。

その後、日本各地で自由な民主主義を求める声が高まる中、普通選挙を求める運動などにより、1945年、ようやく20歳以上のすべての国民が選挙権を獲得することができました。この道のりは、非常に長く、困難なものでした。

1945年まで
女性には全く選挙権が
なかったんだね



▼日本の選挙権の歴史

年	性別・年齢	選挙権を得る条件	人口割合
1889年	男・25歳	直接国税15円以上の納税者	1%
1919年	男・25歳	直接国税3円以上の納税者	5.5%
1925年	男・25歳	条件なし	20%
1945年	男女・20歳	条件なし	48%
2016年	男女・18歳	条件なし	84%

選挙のこと、政治のことを考えてみよう

現在は、日本国籍を持つ誰もが18歳になれば、投票できます。しかし、その背景には、投票したくてもできなかった人、投票するために必死で闘った人、さまざまな先人たちの思いと苦労があります。

投票率が年々低下傾向にある今、選挙権を持つ私たちがどのように選挙や政治に関わるか、一人ひとりが考え直す必要があるのかもしれない。

みんなの願いきれいな選挙

